

第2章 地域の概況

第1節 市の自然的条件

1 位置及び地勢

本市は、福井県の最北端に位置し、北東は石川県加賀市、南西は坂井市に隣接し、北西は日本海に面している。

市域は東西、南北ともに約14kmで、面積は116.99km²である。

県都福井市との距離は約20kmで、市内にはJ R北陸本線（芦原温泉駅、細呂木駅、牛ノ谷駅）のほか、福井駅と三国港駅を結ぶえちぜん鉄道三国芦原線（あわら湯のまち駅、番田駅、本荘駅）があり、住民の主要な交通機関となっている。

一方、基幹道路としては、南西から北東に縦断する国道8号、国道305号のほか、本市と福井市を結ぶ主要地方道福井加賀線（芦原街道）、主要地方道福井金津線（嶺北縦貫道路）がある。また、関西・中京方面と北陸をつなぐ北陸自動車の金津インターチェンジを有している。

本市の地勢は、北部の丘陵地と南西部の平坦地、東部の山岳地帯と大きく三分されている。丘陵地は海拔30mほどの洪積層台地で、内に北潟湖、外に砂浜の続く海岸線を有しており、市の中央部より西側は全体的になだらかな地形となっている。平坦地は海拔3mほどの沖積層からなる坂井平野が広がり、その中央部を東西に竹田川が流れている。山岳地は第三期層山岳地帯で、市を代表する海拔548mの刈安山や海拔568mの劔ヶ岳がある。

2 河 川

嶺北地方の河川は、九頭竜川が幹川でこれに大小いくつかの支流が合流して日本海に注いでいる。支流のうち加賀越前山地の浄法寺山付近に源を発する竹田川が本市の平坦地中央部を貫流し、穀倉地帯に潤いを与えている。

また、北潟湖は周囲14km、面積2.73km²、水深3.5mの汽水湖で、大聖寺川に合流して日本海に注いでいる。

3 気 象

本市は、北陸特有の気候である多雨多雪地帯に属し、年間降水量は平均2,068mm、平均気温13.7度、平均風速2.2m/S（三国アメダス平年値）で、春から夏にかけては南風、秋から冬には北西の季節風が吹き、12月下旬から2月下旬までは降雪が多い。

第2節 社会的条件

1 人口

本市の人口は、平成22年国勢調査結果では、人口29,989人（平成17年31,081人）、世帯数9,735世帯（平成17年9,658世帯）となっており、人口は若干減少している。

また、平成22年国勢調査結果の65歳以上の人口は7,959人、高齢化率は26.6%であり、高齢化が継続している。

2 経済

交通通信網の発達や日常生活圏の拡大とともに経済活動範囲も拡大し、産業構造も変化してきた。平成22年の国勢調査における産業別就業人口を見ても、第1次産業に就業する人口（6.1%）は平成17年（7.3%）と比較すると減少しており、この傾向は今後も続くものと推測される。

こうした中、本市においては職住近接の考え方から積極的に企業誘致を推進したことにより多数の生産拠点が存在しており、平成24年の製造品出荷額（平成24年福井県工業統計調査）は県内第4位の地位を占めている。

また、温泉街では、旅館等の大型化や中高層化が進み建築物が複雑化しているほか、両市街地では小売店舗の減少が進んでおり、その空洞化が問題となってきた。

3 交通

本市の道路網は、国道11.3km、県道71.0km、市道323.9km（平成17年道路現況表による）である。国道8号は本市の東部を、305号は坂井北部丘陵地帯を縦断している。また、主要地方道福井加賀線及び福井金津線は平坦地を南北に、芦原丸岡線は東西に走っている。そのほか一般県道、市道は改良舗装されており、経済活動と市民の日常生活の基盤を支えている。

なお、近年は広域幹線農道や地域基幹農道が舗装整備され、地域産業の発展はもちろん生活道路としても欠くことのできない重要な役割を果たしている。